

平成 21 年 11 月 17 日

報道各位

株式会社エフエム東京

### 平成 21 年度中間期業績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、昨年来の世界的な金融不安の影響による景気後退が一部で持ち直しつつあるものの、企業収益の低迷、雇用環境の悪化が依然として国民生活に深刻な影を落とし、景気の先行きへの不安感、所得の伸び悩みから個人消費も低調に推移しました。メディア環境をめぐる構造変革が加速する中、このような景況の影響が加わり、新聞・雑誌・テレビ・ラジオの所謂マスコミ 4 媒体をはじめとする既存メディア事業者にとって厳しい経営環境が当中間連結会計期間においても続きました。

このような状況の中、当中間連結会計期間の当社グループの売上高は 104 億 6 千 8 百万円（前年同期比 10.9%減）となりましたが、グループ再編による不採算事業整理の効果等により、営業利益は 4 億 5 千 3 百万円（前年同期比 75.8%増）、経常利益は 4 億 2 千 4 百万円（前年同期比 65.2%増）、中間純利益は 4 億 2 千 4 百万円（前年同期比 3 億 8 千 2 百万円増）となりました。

当社単体の業績につきましては、放送事業収入の減少等により売上高が 67 億 6 千 3 百万円（前年同期比 11.5%減）、営業利益は 3 億 7 千 1 百万円（前年同期比 14.1%減）、経常利益は 3 億 3 千 8 百万円（前年同期比 31.2%減）となりましたが、中間純利益については、特別損失の減少、法人税等及び法人税等調整額の減少等により 3 億 2 千 5 百万円（前年同期比 41.8%増）となりました。

#### 〈放送事業活動〉

FM 放送事業においては、当社の周波数「80.0MHz」にちなんだコミュニケーションキャッチフレーズ「80.Love」（エイティ ポイント ラブ）に基づき、独自の視点（“ポイント”）と愛情・思いやり（“ラブ”）を持った放送の発信を目指すことにより、ステーションブランドのさらなる強化を図りました。

4 月の番組改編においては、平日朝のニュースワイド「クロノス」（月～金曜 5:00～8:30）に新出演者として人気スポーツジャーナリスト中西哲生（月～木曜日担当）を起用し内容を強化したほか、当社の看板番組である「JET STREAM」（月～金曜深夜 0:00～0:55）では、ラジオレギュラー初挑戦となる俳優の大沢たかおを“新機長”に迎え、新たな歴史をスタートさせました。一方、土曜・日曜ゾーンでは、「サタデー・ウェイティング・バー」（土曜 17:00～17:55）、「フロンティアーズ～明日への挑戦」（土曜 18:00～18:25）、「Melodious Library」（日曜 10:00～10:30）、「あ、安部礼司」（日曜 17:00～17:55）など、FM メディアのリスナー層にマッチした高品質な番組が、引き続きリスナーからの共感と高い支持を得

ました。

6月には、アメリカの「ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール」で日本人として初の栄誉に輝いた盲目のピアニスト辻井伸行さんの凱旋演奏会を当社ホールにて実現、その模様を生中継（6月11日15:00～）し、新聞・テレビなど他メディアでも大きく取り上げられました。また、9月には、FM受信機能付携帯電話（FMケータイ）の聴取者拡大を目指す「MEET THE MUSIC 09」キャンペーンの一環として、今年5月に多くのファンに惜しまれつつ逝去した忌野清志郎へのトリビュート番組を、全民放FM53局で放送しました（当社放送は9月19日深夜1:00～3:00）。

一方、4年ぶりとなる衆議院議員総選挙に際しては、当社のターゲットリスナーである若者に向けた選挙特集を2週間にわたり展開。政治に関心の薄い20代の投票率を10%上げることを目標にしたキャンペーンや、リスナーを対象に様々な切り口から選挙に関する意識調査を実施するなど、放送を通じた独自の活動が各方面からの注目を集めました。選挙運動期間中の8月中旬には民主党の岡田幹事長（当時）、自民党の細田幹事長（当時）が若者の街・渋谷のスペイン坂スタジオに生出演、普段は見せない別の表情が話題となりました。

放送と連動したクロスメディア展開においては、10代のリスナーから高い支持を集める「SCHOOL OF LOCK!」（月～金曜 22:00～23:55）発のオリジナルイベントとして、今年で3回目を迎える学園祭ライブツアー「YOUNG FLAG!」を全国4都市で開催。さらに、昨年引き続き10代限定のアマチュア・ロックフェスティバル「閃光ライオット」を実施し、音楽的レベルの高さからも注目を集めました。書籍出版の分野では、番組SNSサイトの人気コミュニティを書籍化した原田真裕美の『魂サプリ』、デビュー40周年を迎えた井上陽水の軌跡を集大成した『井上陽水 FILE FROM 1969』等を出版した他、忌野清志郎が生前自ら絵筆を執った環境絵本『ブーアの森』（2002年発行）がその優れた内容から改めて注目を集め、版を重ねました。

デジタル時代に向けた「移動受信用地上放送」（マルチメディア放送）に関しては、平成23年7月の地上テレビジョン放送完全デジタル化後のVHF-LOW帯（現行のテレビ1～3チャンネル）において「地方ブロック向けマルチメディア放送」が開始される予定です。当社始めJFN系列の民放FM38局、および株式会社ジャパンエフエムネットワーク（持分法適用関連会社）は、委託放送事業者としての参入を目指し、地域ブロックごとに委託放送事業企画会社6社を10月7日付けで設立しました。一方、「福岡ユビキタス特区」では、平成21年3月31日付で「実験試験局」免許が付与されたことを受け、3セグメント・マルチメディア放送によるサービスモデル構築のための実証実験活動を本格化させております。今後は、平成22年7月頃に委託放送事業免許者が決定する見込みとなっており、平成23年7月以降の放送開始に向け、事業化を目指してまいります。

#### 〈企画・制作事業活動〉

企画・制作事業においては、「松任谷由実 TRANSIT」ツアー全国68公演の運営に参画した

ほか、2日間で15万人を動員した「GLAY」デビュー15周年記念・日産スタジアムライブを始め、「山下達郎」、「Mr. Children」、「安室奈美恵」、「ドリームズ・カム・トゥルー」、「福山雅治」、「浜崎あゆみ」、「Boyz II Men」等、国内外の人気アーティストのコンサートを主催し、今年上半期のエンタテインメント界に数多くの話題を提供しました。また、東京都と協働して展開した音楽イベント「東京ミュージックサークル」では、“クロスオーバー”をテーマに、今井美樹、伊藤由奈、日野皓正ほかジャンルを越えたアーティストのライブをプロデュースし、東京からの新しい音楽・文化の発信を目指しました。毎年恒例の真夏の夜のJAZZイベント「Audi MUSIC meets ART」では、同企画の10周年を記念した特別編成バンドが箱根彫刻の森美術館を舞台にクオリティの高い演奏で観客を魅了しました。

放送連動のオリジナル企画では、前述の「SCHOOL OF LOCK!」発のイベント「YOUNG FLAG!」および「閃光ライオット」を実施したほか、20回目の節目を迎えた4月22日の「アースデー・コンサート」では、若手女性シンガーの中で人気実力ともにNo.1といえる絢香によるワンマンライブが実現、世界各国への中継を通じ、当社の“アースコンシャス”の理念を広く発信しました。

また、映画製作においては、人気ドラマの映画化による話題作「ハゲタカ」を共同制作、時代に即した内容が反響を呼びました。

#### 〈インフォメーションプロバイダー事業活動〉

当社連結子会社ジグノシステムジャパン株式会社では、主力の携帯電話向けモバイルコンテンツ事業（B to C）において、自社の強みであるデザイン力を活かした待受Flash®サイトやFM放送番組と連動した占いサイト、女性ターゲットの戦国武将をキャラクターとしたゲームサイト等、新公式サイトの開発に注力しました。また、新たな取り組みとして、ユーザーが撮影した写真等を素材にオリジナルのきせかえ画面を自動生成できる公式サイト「ワンダーボックス」のサービスを開始しました。一方、モバイルソリューション提供分野（B to B）では、自社の携帯サイトで培った企画・開発力を背景に、他社携帯サイトから最もニーズの高いきせかえ画面の制作受託で実績を伸ばしました。さらに次世代のビジネス開発を見据え、クラウドコンピューティングサービスの具現化であるストレージサービスの開発を積極的に進めました（平成21年12月サービス開始予定）。

#### 〈その他の事業活動〉

当社が社会的な活動の一環として運営するTOKYO FM少年合唱団は、創立24年目を迎え、沼尻竜典指揮「トスカ」、井上道義指揮「トゥーランドット」への出演など、多彩な活動を行いました。

以上

# 平成22年3月期 中間決算の概要

平成21年11月17日

会社名 株式会社 エフエム東京

URL <http://www.tfm.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富木田 道臣

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員総務局長 (氏名) 小林 哲

TEL (03) 3221-0080

配当支払開始予定日 平成21年12月10日

(単位：百万円未満切捨)

## 1. 21年9月中間期の連結業績 (平成21年4月1日～平成21年9月30日)

### (1) 連結経営成績

(%表示は対前年同期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年9月中間期	10,468	△10.9	453	75.8	424	65.2	424	907.7
20年9月中間期	11,746	△12.4	258	△55.0	256	△53.9	42	363.6

	1株当たり中間純利益		潜在株式調整後1株当たり中間純利益	
	円	銭	円	銭
21年9月中間期	473	85	—	—
20年9月中間期	47	02	—	—

(参考) 持分法投資損益 21年9月中間期 13百万円 20年9月中間期 51百万円

### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
21年9月中間期	37,464		23,821		62.8		26,251	31
21年3月期	37,432		23,252		61.2		25,588	50

(参考) 自己資本 21年9月中間期 23,519百万円 21年3月期 22,926百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり中間配当金		1株当たり年間配当金	
	円	銭	円	銭
21年9月中間期	30	00	—	—
20年9月中間期	30	00	—	—
21年3月期	—	—	60	00

## 3. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む) 21年9月中間期 900,000株 21年3月期 900,000株

② 期末自己株式数 21年9月中間期 4,045株 21年3月期 4,045株

③ 期中平均株式数 21年9月中間期 895,955株 20年9月中間期 895,955株

平成22年3月期 中間決算の概要

(参考) 個別業績の概要

(単位：百万円未満切捨)

21年9月中間期の個別業績（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

(1) 個別経営成績

(%表示は対前年同期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年9月中間期	6,763	△11.5	371	△14.1	338	△31.2	325	41.8
20年9月中間期	7,641	△14.2	432	△2.3	492	△9.8	229	△38.4

	1株当たり中間純利益		潜在株式調整後1株当たり中間純利益	
	円	銭	円	銭
21年9月中間期	361	35	—	—
20年9月中間期	254	79	—	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
21年9月中間期	35,919		24,319		67.7		27,021 58	
21年3月期	35,456		23,831		67.2		26,479 80	

## 前年同期比較 中間損益計算書（連結）

平成21年4月1日～平成21年9月30日

（単位：千円）

勘定科目	平成21年9月中間期 (H21.4.1～H21.9.30)	平成20年9月中間期 (H20.4.1～H20.9.30)	前年同期比
売上高	10,468,530	11,746,100	89.1%
売上原価	7,035,407	7,992,601	88.0%
売上総利益	3,433,122	3,753,498	91.5%
販売費及び一般管理費	2,979,224	3,495,322	85.2%
営業利益	453,898	258,176	175.8%
（売上高営業利益率）	4.3%	2.2%	
営業外収益	75,397	145,935	51.7%
営業外費用	104,764	147,169	71.2%
経常利益	424,531	256,942	165.2%
（売上高経常利益率）	4.1%	2.2%	
特別利益	90,113	149,944	60.1%
特別損失	44,846	213,601	21.0%
税金等調整前中間純利益	469,799	193,285	243.1%
法人税、住民税及び事業税	43,044	124,925	34.5%
法人税等調整額	6,855	89,215	7.7%
少数株主損失	4,648	62,984	7.4%
中間純利益	424,548	42,129	1007.7%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 前年同期比較 中間損益計算書（単体）

平成21年4月1日～平成21年9月30日

（単位：千円）

勘定科目	平成21年9月中間期 (H21. 4. 1～H21. 9. 30)	平成20年9月中間期 (H20. 4. 1～H20. 9. 30)	前年同期比
売上高	6,763,698	7,641,807	88.5%
売上原価	4,424,563	4,947,585	89.4%
売上総利益	2,339,135	2,694,222	86.8%
販売費及び一般管理費	1,967,732	2,261,735	87.0%
営業利益	371,403	432,487	85.9%
（売上高営業利益率）	5.5%	5.7%	
営業外収益	44,394	170,489	26.0%
営業外費用	77,186	110,687	69.7%
経常利益	338,610	492,289	68.8%
（売上高経常利益率）	5.0%	6.4%	
特別利益	45,956	37,650	122.1%
特別損失	33,509	191,577	17.5%
税引前中間純利益	351,057	338,361	103.8%
法人税、住民税及び事業税	2,570	12,365	20.8%
法人税等調整額	23,271	96,681	24.1%
中間純利益	325,215	229,315	141.8%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 前年同期比較 売上高内訳書(単体)

平成21年4月1日～平成21年9月30日

(単位:千円)

	平成21年9月中間期 (H21.4.1～H21.9.30)	平成20年9月中間期 (H20.4.1～H20.9.30)	前年同期比
売上高	6,763,698	7,641,807	88.5%
放送事業収入	5,858,721	6,854,998	85.5%
放送収入	4,011,674	4,786,262	83.8%
タイム放送料	2,942,682	3,585,835	82.1%
スポット放送料	1,068,992	1,200,426	89.1%
制作収入	951,215	1,090,907	87.2%
その他	895,832	977,829	91.6%
企画事業収入	540,973	403,017	134.2%
賃貸事業収入	282,791	292,394	96.7%
その他事業収入	81,211	91,397	88.9%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。



## 平成 21 年 9 月中間期(平成 21 年度上期)

### 広告会社取り扱い順位

#### <総合順位>

45 期	44 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	5	ビデオプロモーション
4	3	アサツー ディ・ケイ
5	7	オリコム
6	10	京橋エイジェンシー
7	11	三晃社
8	-	読売エージェンシー
9	24	アイアンドエス・ビービーディーオー
10	16	中宣メディア

#### <タイム>

45 期	44 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	5	ビデオプロモーション
4	7	オリコム
5	-	読売エージェンシー
6	3	アサツー ディ・ケイ
7	17	デルフィス
8	6	コスモ・コミュニケーションズ
9	8	ガイアコミュニケーションズ
10	13	中宣メディア

#### <スポット>

45 期	44 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	4	三晃社
4	5	京橋エイジェンシー
5	9	アイアンドエス・ビービーディーオー
6	3	アサツー ディ・ケイ
7	17	放送文化事業
8	12	日本経済広告社
9	25	ビデオプロモーション
10	-	朝日広告社